

「第1回長良川河口堰合同会議準備会」に関する傍聴者の御意見

氏名	御意見
小林 収	<p>基本的には進行方針としては、関口先生の指摘の通りだと思います。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① まず、期限を切って国交省に対して準備会としてこれまで県がやってきたことに対する公式見解（河口堰論の中身と行政手法の双方に対して）を求めること ② 公式見解が出されたらそれを公にして、公の場で準備会が論点整理をすること（その際準備会の場合への国交省の出席をあえて求める必要はない）。 ③ その論点整理によって、何がしかの方向制が見えてくるように思われる。 ④ 今後の議論における関口・松尾両委員の役割の大きさに注目しています。
高木 邦子	<p>合同会議への要望</p> <p>まずはじめに愛知県知事をはじめ、この長良川河口堰の検証に係わっている皆様に敬意を表します。歴史的なこの取り組みが全国の指針となるよう期待しています。</p> <p>さて合同会議への要望ですが、一般市民の立場から申し上げます。この合同会議は何を目的とするものなのかが、重要だと思います。愛知県と国交省が共同で行う事になる場合、どういう目的で行うのかをお互いの共通の目的として立ててほしい。例えば、「新しい長良川を再生する」、「未来に繋げる新たな長良川を再生する」といった目的です。</p> <p>目的が定めれば、方針も定まり、委員の姿勢も決まってくる。今の時点では目的が定まっていないので、会議が対立的な議論を想定しているような意見も出てきます。調査は国と愛知県、または三重県、岐阜県が共同で行わなければ意味がなく、前進しないと思います。そうしたことを踏まえれば、おのずと目的が定まってくると思います。まずは共通の目的を定めることだと思います。</p>
鈴木 三郎	<p>河口堰周辺住民として意見させていただきます。</p> <p>河口堰運用から16年経過した今、河口堰事業の是非について、検討されているようですが、河口堰とともに生活してきた一住民としては、「開門したら環境が良くなるのか悪くなるのか」、「塩害が発生するのかもしれないか」・・・事業の是非を議論するのではなく、「今、開門したらどうなるのか」論点はこれにつきると思います。愛知県が、三重県、岐阜県を流れる長良川の開門調査を提案するのであれば、まずは、愛知県が「今、開門したらどうなるのか」を明らかにすべきです。何の説明もなく「開けてみなければわからないから、開けて調査してみる。」では、愛知県民だって納得しないと思いますが、いかがでしょうか。</p>